

City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS で検索

うめきた2期区域開発 2024年先行まちびらきに向けて進行中

JR大阪駅北側の再開発区域、通称「うめきた」。2002年から始まった「うめきた」プロジェクトが最終局面を迎えている。残る2期区域のうち、2024年には一部区域の先行まちびらき、2027年には基盤整備完了を目指す。

「うめきた」は先行開発区域と2期区域に分けられる。全24ヘクタールのうち、先行開発区域の7ヘクタールがグランフロント大阪として2013年にオープン。2期区域については2015年3月に「うめきたまちづくりの方針」が決定し、まちづくりの目標として「『みどり』と『イノベーション』の融合拠点」が掲げられた。みどりや健康・医療など新産業の創出をテーマに民間の開発事業者が募集され、2018年7月に三菱地所を中心とするグループに決定した。



うめきた2期区域の完成イメージ(事業者提案より)

南北に延びる区域の中心部4.5ヘクタールは、木や芝生、池などを有し、まちと一体的に整備する都市公園。公園の北側は中核機能と宿泊機能などを配置し、先行開発区域と連携する新産業創出と産学官民の交流ゾーン、南側は国際集客・交流に資する業務・商業・宿泊施設などを配置し、世界からのビジネスや観光を促す「高度複合都市機能集積ゾーン」を予定。都心にある「みどり」の空間を通じて、来街者が参加体験し、楽しみながら商品開発や評価に参画できる場を実現する。同地区のイメージを知ってもらうため、UR都市機構は昨年度から地区内の地上通路の一角にカフェを併設した情報発信拠点「UMEKITA BASE by UR」をオープン。普段は入れない工事エリアを回るガイドツアーを月1回開催するなどしている。

うめきたプロジェクトと同時に、JR大阪駅周辺駅も大きく変化している。昨年11月には商業施設「リンクス梅田」や「ホテル阪



カフェを併設した情報発信拠点「UMEKITA BASE by UR」(UR都市機構提供)

急レスパイア大阪」を備えた「ヨドバシ梅田タワー」がオープン。リンクス梅田はヨドバシカメラマルチメディア梅田と連携し、地下1階から8階までの9フロアに渡って、日本初や関西初の店舗を多数含む注目のテナント約200店舗を出店。1階北側には、東京や横浜、仙台など主要都市への直行便が発着するバスターミナルを整備している。同施設9～35階はホテル阪急レスパイア大阪(阪急阪神ホテルズ)で、メインターゲットにインバウンドを位置付ける。

大阪地下街は、昨年5月から改装工事を行っていた「ホワイトイメダ・泉の広場エリア」を同12月にリニューアルオープン。長年、親しまれてきた噴水が撤去された場所には、

【うめきた2期区域の土地利用計画図】(事業者提案より)

- 民間宅地(北街区) 1.6ha**
中核機能と宿泊機能を配置し、先行開発区域と連携する新産業創出と産学官民の交流ゾーン
- 都市公園 4.5ha**
【北公園】市寄附金整備区域を含む緑豊かな憩いのゾーン
【南公園】広場を中心に多くの人が集い多彩な活動ある賑わいゾーン
【賑わい軸(東西軸)】公園と連続する広場空間として南北を一体化
- 民間宅地(南街区) 3.0ha**
国際集客・交流に資する業務・商業・宿泊・MICE施設を配置し、世界からのビジネス・観光を促す高度複合都市機能集積ゾーン



新たなシンボルとして水と木が合わさったモニュメント「Water Tree」を設置。LEDの光で水を表現する。泉の広場を含む3つのゾーンでは、大阪ならではの多彩な「食」の賑わいをコンセプトにした飲食店がテーマごとに立ち並び、利用シーンに合わせて楽しめる。同12月には日本郵便が、大阪駅西地区の旧大阪郵便局敷地においてオフィスや商業施設、1,200席の劇場、ホテル機能を導入した大型複合開発を発表。2024年3月の竣工を予定しているという。建て替えが進む阪神百貨店梅田本店は、低層階の阪神百貨店2期部分が2021年秋に開業、全面開業は2022年春を予定。2023年には新たに(仮称)北梅田駅も設置される。

みんなが参加できる聖火リレー各地でイベントも開催 北摂5市でもオリンピック気運高まる

東京2020オリンピック聖火リレーのルートがほぼ決まり、大阪府でも各自治体単位に任意で行われるイベントの計画が進められている。大阪府は4月14日、15日の2日間。1日目の世界文化遺産の百舌鳥・古市古墳群を見どころとした堺市を皮切りに、北摂5市でも聖火リレーが行われる。

池田市では出発地点のダイハツ工業本社で、石橋小学校、緑丘小学校、ダイハツのプラスバンドによる合同演奏が行われ、本社正門前にモニターを設置し、その様子が見られるとともに、沿道には同校の5、6年生が応援に駆けつける予定。約2.5kmの道のりをランナーが駆け抜け、市内最終地点の池田小学校では池田市吹奏楽団による演奏を始めとしたミニセレブレーションを開催。聖火リレーのプ

レゼンティングパートナーであるコカ・コーラ社による応援グッズやサンプリンググッズの配布も。

箕面市は、箕面市立かやの広場で行われる中高大学生などによる応援演舞が聖火リレーを盛り上げる。みのおキューズモールから新しい街並み、閑静な住宅街を抜けて箕面駅前から市役所に向かい、約3kmを駆け抜け芦原公園へ。ゴール地点でも応援演舞を繰り広げ聖火を見送る。昨年末に募集したボランティアには1,000名を超える応募があり、今から盛り上がりを見せている。

茨木市は関西最大級の物流拠点があるヤマト運輸関西ゲートウェイ付近からスタート。川端康成文学館も見どころの1つだ。吹田市は万博公園内にある1970年に開催された大阪万博のシンボル、太

陽の塔を1周するようなコースとなっている。1日目の最終地点なので聖火を迎え入れる頃には日も落ち、ライトアップされた塔と聖火が幻想的な光景となりそう。聖火の到着を祝うセレブレーションも大規模に行われる予定。豊中市は、スポンサーランナーが走る区間として現在ルートやイベントなどを調整中だ。

2日目最終地となる大阪市では、大阪城近くから船で聖火を運ぶ予定という。中之島公園の大阪市中央公会堂前でセレブレーションが開催される。当日はマイカーの交通規制などもあるので注意は必要だが、選ばれたランナーだけでなく、沿道での応援やイベント参加など、誰もが気軽楽しめる2日間となりそう。ランナーがどこを通るのか、詳細は聖火リレーサイトで確認することができる。SNSに「#みんなの聖火



リレー」をつけて当日の様子を投稿すれば、聖火リレーサイトやSNS上で公開されることも。また各プレゼンティングパートナーがフォトコンテストを開催。各社のテーマにあわせた素敵な投稿にはオリジナルグッズがプレゼントされる。

■詳細ルートのスケジュール

※北摂のみ抜粋(市区町村・出発予定地→到着予定地)

- 【4月14日】
- 【豊中市】調整中
- 【池田市】ダイハツ工業→池田市立池田小学校
- 【箕面市】箕面市立かやの広場→芦原公園
- 【茨木市】畑田東交差点南→茨木市役所前
- 【吹田市】万博記念公園内
- 【セレブレーション会場】吹田市・大阪府日本万国博覧会記念公園 お祭り広場
- 【4月15日】
- 泉佐野市～大阪市